

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて 衣生活，住生活を工夫し創造する生徒の育成 —問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して—

東京都中学校技術・家庭科研究会
江東区立第二砂町中学校 指導教諭 井上あゆみ

1 主題設定の理由

これからの子供たちには、今後の社会の様々な変化に主体的に対応しながら生活することや、持続可能な社会の構築を目指すことが求められている。しかし、現在の衣生活、住生活では、衣服の大量廃棄や予想を超えた自然災害の備えが十分でないなどの課題が見られる。

本研究会では、衣生活、住生活におけるこれらの課題を自分のこととして捉え、これからの生活を展望し、問題を見極め、課題を設定し、解決する力を養う必要があると考える。

これらを踏まえ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、衣生活、住生活を工夫し創造する生徒の育成を目指し、研究主題を設定した。

2 生徒の実態

東京都23区内10校の中学1,2年生2,395人を対象に衣生活、住生活の授業で扱う16の用語について、「聞いたことがある」「説明できる」「もっと詳しく知りたい」の3段階で尋ねた調査を授業開始前の令和2年7月に行った。

「持続可能な社会」「衣服計画」「住空間」などの用語は、聞いたことがあっても説明できる割合は低く、もっと詳しく知りたいという割合も30%以下であった。この結果から、理解が十分でなく、知りたいという意欲も低いことがわかった。説明できると答えた割合の高い用語の一つに「防災」(図1)があったが、表2のように約70%が備えはしていても、地域の防災訓練に参加する生徒は15%にとどまり、実践割合は比較的低かった。また、「SDGs」について説明できる生徒は7%にとどまった。これらの実態を踏まえ、持続可能な社会への理解

や家庭での実践につなげる工夫をしていく必要があると考える。

表1 衣生活、住生活の授業で扱う16の用語

持続可能な社会	SDGs	3R	T.P.O.
和服	コーディネート	衣服計画	既製服
衣服の手入れ	家庭内事故	住空間	伝統的な住まい
結露	バリアフリー	防災	少子高齢化

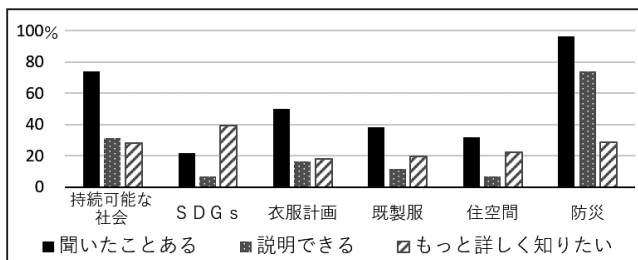


図1 衣生活、住生活の授業で扱う用語に関する回答結果

表2 「防災」に関する回答結果

質問内容	はい	いいえ
災害に対する備えはありますか	69.1%	30.9%
家族と防災のことについて話をしますか	39.4%	60.6%
地域の防災訓練に参加していますか	14.6%	85.4%

3 目指す生徒像

- ・よりよい衣生活、住生活に向けて、「健康・快適・安全」、「持続可能な社会の構築」の視点から問題を見極めることができる生徒
- ・衣生活、住生活の問題を解決するために、課題を設定し、解決策を構想し、解決することができる生徒

4 研究仮説

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて衣生活、住生活の問題を見極め、課題を設定し、解決する学習活動を繰り返し展開することで、衣生活、住生活を工夫し創造する生徒が育つであろう。

5 研究の内容

(1) 指導計画の工夫

① 3年間を見通した指導計画

第1学年	A 家族・家庭生活 (1) ガイダンス① 家族・家庭生活の基本的な機能④	B 衣食住の生活 (1) 食事の役割 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事⑤	B 衣食住の生活 (4) 衣服の選択と手入れ (5) 布を用いた製作⑥
	B 衣食住の生活 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 (3) 日常食の調理と地域の食文化⑤	A 家族・家庭生活 (2) 幼児の生活と家族 (3) 家族・家庭や地域とのかかわり⑦	B 衣食住の生活 (6) 住居の機能と安全な住まい方⑧
第2学年	C 消費生活・環境 (1) 金銭の管理と購入 (2) 消費者の権利と責任⑩	B 衣食住の生活 (7)	A 家族・家庭生活 (3) 家族・家庭や地域とのかかわり④
第3学年			

図2 3年間の指導計画

衣生活は第1学年後半に15時間で設定し、消費生活の内容を含めて関連を図った。住生活は保健体育の「自然災害による障害」と関連付け、第2学年後半に8時間で設定した。

持続可能な社会の構築に向けては、SDGsを意識して取り入れた。

② ストーリー性をもった題材の設定

題材にストーリー性をもたせることは、自分たちの生活を長期的に展望することにつながると考えた。

衣生活では「衣服の一生」を柱に、長く大切に着るために「衣服を選ぶ」「衣服を手入れする」「衣服

を再利用する」の3つのフェーズを設定し、ストーリー性をもたせた。第1フェーズでは、「衣服を選ぶ」をテーマに小学校で既習したことをもとに、衣服の選択から着用について学習する。第2フェーズでは、「衣服を手入れする」をテーマに衣服を大切にし、長持ちさせることや計画的な活用の必要性について学習する。第3フェーズは第1、第2フェーズでの学びを生かし、「衣服を再利用する」をテーマに資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作を行い、よりよい衣生活に向けて学習する。

住生活では1つのモデル家族とモデル住宅の鳥瞰図を活用することにより、「様々な変化に対応する住まい方」において、ストーリー性をもたせた。ここでは、家族構成の違いや家庭内事故、突然発生する自然災害に対応する住まい方について学習する。

③ 問題解決的な学習過程

題材全体と各フェーズにおいて問題を見極め、課題を設定させ、問題解決的な学習を行うことができる指導計画を立てた(表3)。一連の学習過程により、課題の解決に向けて主体的に考え構想したり、表現したりして、深い学びの実現を図れるようにした。

表3 学習過程と題材の指導計画

題材全体を見通した学習過程	衣生活						住生活						
	フェーズでの学習過程	フェーズ	時	衣生活指導内容	指導項目	SDGs	生活の営みに係る見方・考え	フェーズ	時	住生活指導内容	指導項目	SDGs	生活の営みに係る見方・考え
「衣生活、住生活」の問題発見・課題設定 解決方法の検討と計画 解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)	「衣服を選ぶ」の問題発見・課題設定 解決方法の検討と計画 解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)	1 3時間 「衣服を選ぶ」	1	衣生活の問題発見・課題設定	B(4)イ (5)イ	12	持 健 康 可 ・ 快 適 社 会 ・ 安 全 構 築	「住居の機能を知り、安全に住まう」8時間	1	住生活の問題発見・課題設定	B(6)イ	3 13	持 健 康 可 ・ 快 適 社 会 ・ 安 全 構 築
			2	購入時の注意点	B(4)ア (7)(1)	12			2	住まいの機能	B(6)ア (7)	13	
			3	T.P.O.と個性	B(4)ア (7),イ				3	住空間の使い方	B(6)ア (7)		
	「衣服を手入れする」の問題発見・課題設定 解決方法の検討と計画 解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)	2 4時間 「衣服を手入れする」	4	適切な手入れ①	B(4)ア (1)	12			4-6	家族の安全を考えた住空間の整え方 ※保健体育と関連	B(6)ア(1), イ	3 11	
			5	適切な手入れ②	B(4)イ	12							
			6	洗濯と洗剤	B(4)ア(1), イ	6 12							
			7	衣服の計画的な活用	B(4)イ	12							
	「衣服を再利用する」の問題発見・課題設定 解決方法の検討と計画 解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善 家庭・地域での実践(準備)	3 8時間 「衣服を再利用する」	8	作品計画	B(5)イ	12 14			7-8	よりよい住生活に向けて	B(6)イ	3 11 13	
			9-13	作品製作	B(5)ア,イ								
			14	作品評価	B(5)イ								
			15	よりよい衣生活に向けて	B(4)イ (5)イ	6 12 14							

家庭・地域での実践へ



(2) 見方・考え方を働かせ、質の高い深い学びを実現するための指導の工夫

衣生活、住生活の題材では、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築の視点を意識し、家庭や地域での実践につなげるために、問題を見極め、課題を設定し、解決するという学習活動について次のような工夫をした。

① 問題を見極めるための工夫

問題を見極めるとは、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら問題を見いだすことである。題材の第1時において、問題を見極めるために次のような手立てを設定した。

- 手立て1 既習の内容（小学校での学び）と自分の生活を関連させて問題を見極める。
- 手立て2 家族の生活や社会の現状と自分の生活を関連させて問題を見極める。
- 手立て3 他者からの意見等を踏まえて検討し、自分の生活と関連させて問題を見極める。

〔手立て2の具体例〕

衣生活では、衣服の大量廃棄や着なくなった衣服を回収し、再利用している画像や動画を提示し、持続可能な社会の構築の視点から、自分の生活と関連させて問題を見極めさせる。

住生活では、自然災害時の住まいやユニバーサルデザインを取り入れた住まい、コロナ禍での住生活の変化などの画像や動画を提示し、健康・快適・安全の視点から自分の生活と関連させて問題を見極めさせる。



図3 動画視聴の様子

〔手立て3の具体例〕

衣生活では、衣服の一生について困っていることや問題点、よりよくしたいことについて個人で考え、班で意見交換させる。住生活では、家族の様々な変化に対応した住まい方について個人で考え、班で意見交換した後に、全体で共有する学習活動を取り入れる。

このような学習活動の中で、自分の生活と関連させて問題を見極めさせる。



図4 意見交換の様子

② 課題を設定し、解決するための学習活動の工夫

見極めた問題から自分のこととして課題を設定し、解決するために次のような工夫をした。

ア 資料の提示と記録

課題設定の場面では、既習内容や家族の生活、社会の現状を示す資料を電子黒板で確認した後、それを黒板に掲示することで、見極めた問題を視覚的に捉え、多角的に検討できると考えた。

課題設定や解決の場面では、授業で使用した画像や動画等を保存しておき、個人や班の活動時に必要に応じて、タブレット端末等を使用して振り返ることができるようにした。そのことにより、生徒が資料を有効に活用できると考えた。

イ ワークシートの開発

第1時の問題発見と課題設定、最終時の家庭や地域での実践に向けてのワークシートを1枚にまとめ、対比して書けるようにした。それにより、第1時に題材全体を見通すことができ、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、課題が設定しやすくなると思った。

第2時以降で学習した内容をもとに、衣生活では「生活に生かしたいこと・改善したいこと」、住生活では「自分でやろう・家族に伝えよう」を各授業の終末に記述できるようにした。これらを

確認し、題材全体のまとめとして衣服計画や住まいの安全計画を作成させることで、考察したことを論理的に表現できるようなワークシートを開発した。

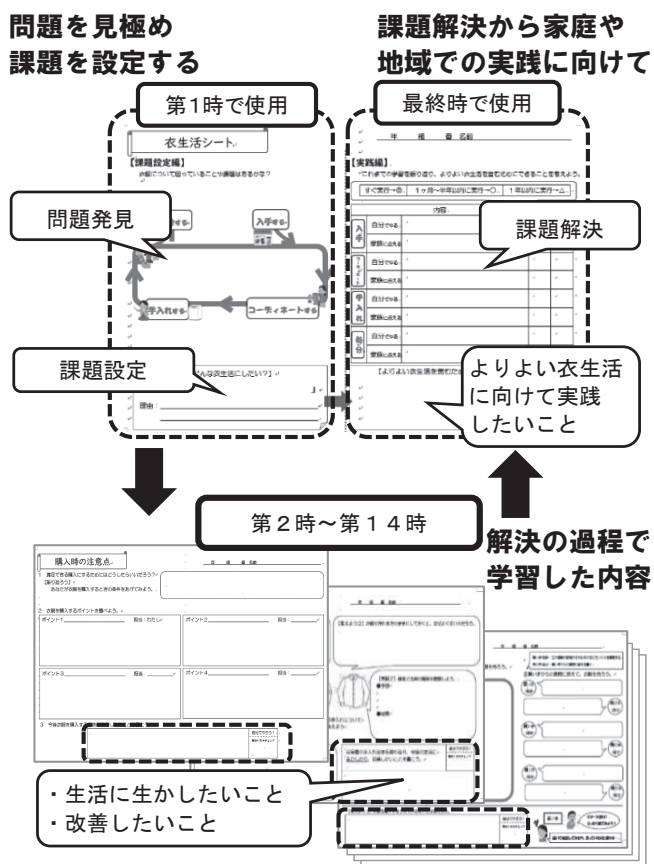


図5 一連の学習過程に沿った衣生活のワークシート (第1時～第15時)

6 研究の成果

(1) 指導計画の工夫

3年間の指導計画を踏まえ、題材全体と各フェーズにおいてストーリー性をもった題材を設定し、問題解決的な学習を繰り返す授業を展開した。その結果、知識・技能を身に付け、工夫し創造しながら主体的に解決できる力が育まれた。

(2) 見方・考え方を働かせ、質の高い深い学びを実現するための指導の工夫

① 問題を見極めるための工夫

手立て1～3を展開したことで、生徒の視野が広がった。例えば、衣服の処分に関する問題として生徒は「自分の家には、着ていない服がある」と自分の生活と関連させて記述していた。意見交換後に自分は服の再利用をしていないということに気づき、「着ていない服の活用方法がわからない」と追記を

していた。

これらの記述から生徒が自分のこととして問題を見極めるために、手立て1～3は有効であることがわかった。

② 課題を設定し、解決するための学習活動の工夫 ア 資料の提示と記録

課題設定や解決の場面で掲示された資料やタブレット端末等に記録した資料を必要に応じて振り返る姿が見られた。このように生徒一人一人が自分の学習状況に合わせて資料を確認できたことで、個に応じた課題の設定や解決につながった。

イ ワークシートの開発

第1時では、題材全体を見通せるワークシートを活用したことで生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生徒は自分のこととして課題を設定することができた。第2時以降では、学習過程に沿ったワークシートを活用したことで、生徒は個人で考え、班で意見交換し、評価・改善を行い、課題を解決することができた。例えば、第1時に「安全に住みたい」と課題を設定した生徒が、住まいの安全計画作成時には「階段に荷物が置いてあるから片付ける」と記述した。班や家族で話し合った後、「階段の荷物を片付け、滑り止めをつけたい」と追記し、評価・改善を行った。さらに、第1時の課題設定を踏まえ、「家族全員が安全に生活できるように他の場所も点検したい」という新たな課題を設定し、実践しようとする態度を育むことができた。

質の高い深い学びを実現するために様々な指導の工夫を行ったことにより、生徒が主体的に取り組み、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて衣生活、住生活を工夫し創造する生徒の育成に近づくことができた。

7 今後の課題

- ・他教科とのつながりを明らかにし、さらに衣生活、住生活を工夫し創造することができるカリキュラム・マネジメントを検討していく。
- ・評価場面や評価方法を精査し、学習の到達状況を把握しながら、さらに資質・能力の育成を目指していく。